

花と緑の銀行だより

191号 2014.5



撮影場所：行田公園（滑川市）

目次

- ・花と緑の提言〈「滑川市の緑化推進事業について」（滑川支店）〉……………2
- ・活動事例〈「地域の皆さんに花作りの楽しさを伝えたい」（魚津支店）〉…3
- ・技術講座〈気軽に楽しむ花づくり1〉……………4
- ・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑰〉……………5
- ・緑づくりコーナー〈庭木に利用する樹種の特徴と管理－クチナシー〉…………6
- ・この人あり〈「五柱社周辺の緑花環境づくり」（氷見支店）〉……………7
- ・お知らせコーナー……………7



「滑川市の緑化推進事業について」

花と緑の銀行滑川支店長

滑川市長 **上田 昌孝**

新緑の匂い立つ季節になりましたが、花と緑の銀行の関係者の皆様方には、日頃から、花と緑の美しい地域づくりに多大なご尽力をいただき、心より感謝を申し上げます。

「滑川市」は県の中央部からやや東北寄りに位置し、背後には富山湾上に能登半島を望み、雄大な北アルプス立山連峰を仰ぎ見る素晴らしい景勝の地であります。農業・漁業・葉業・商業・工業など各産業と調和がとれた人口約3万4千人の都市として着実に発展してまいりました。

市内の主な公園として、富山平野を一望できる東福寺野自然公園では、コース認定された本格的なパークゴルフ場をはじめ、ロマンチックな夜景が望める宿泊施設（SLハウス）など、自然の中で楽しめるいろいろな施設があり、休日ともなると家族連れや若者でにぎわっております。

他に、平成の名水百選の『行田の沢清水』で知られる「行田公園」があり、6月中下旬ごろには88種4万株の花菖蒲が咲きほこります。

また、整備を進めていた「スポーツ・健康の森公園」が平成25年度末に完成しました。この公園の整備方針は、「みんなで手作り 健康と体力を育むスポーツ・健康の森公園」を基本コンセプトに、植樹や芝張りなど、できるだけ広く市民の皆さんのボランティアによる手作りで整備を進めてきました。



今後の公園事業としては、2級河川上市川下流部に位置する「いをのみ公園」の拡張整備を行うこととしております。主な施設としては、せせらぎや水辺によるビオトープとともに、四阿・ベン

チ、樹木による憩いゾーン、キャッチボールや軽運動等が行える芝生広場を主とした多目的ゾーン、子どもたちが遊ぶわんぱくゾーン、そしてシルバーゾーンでは高齢者の健康増進のための健康遊具を設置するなど、健康寿命延伸にも寄与する公園として整備を進めることとしております。

毎年5月には、市道駅南環状線沿いのフラワーポットや市道滑川駅前線中央分離帯（通称「はたるいかプロムナード」）に、地域住民がボランティアで花苗を植込みし、色鮮やかなフラワーロードが、訪れる人々を迎え、心を癒してくれます。

現在、花と緑の銀行滑川支店は頭取9名、グリーンキーパー31名、計40名であり、そのメンバーで構成される滑川市花と緑の活動推進協議会はさまざまな緑化活動を実施しております。昨年の活動としては、「スポーツ・健康の森公園」内に手作りで「市制施行60周年記念花壇」を作りました。花壇づくりだけではなく、春と秋の花苗植栽、水やりなど会員みんなで協力して管理を行っております。



これからの本市の花と緑の美しい地域づくりは、花と緑の育成に情熱をもち、地域の緑化推進のリーダーである頭取・グリーンキーパーの方々や市民の皆様のご意見をいただきながら、進めていきたいと考えておりますので、一層のご支援とご協力を心からお願いいたします。

最後になりましたが、公益財団法人花と緑の銀行の益々の発展と皆様方のご健康とご活躍をご祈念いたします。



地域の皆さんに花作りの楽しさを伝えたい

花と緑の銀行魚津支店

上中島地方銀行頭取 **吉崎 一夫**

私と8名のグリーンキーパーは、地区の皆さんと「花と緑に親しみ潤いと豊かな環境の地域作りを目指す」を目的に年間計画を立て活動しています。

その活動内容は、小学校児童と一緒に汗を流して花を植え育てる事です。春は花壇の土作りに始まり、花苗を植込み、秋口からは再び乱れた花壇を整備一新して、翌年に向け秋咲きの花苗や春咲き球根の植込み作業を行います。毎日の水やりなど、その重要な役目を担っているのは子供達で、日々花と緑と一緒に、「未来のグリーンキーパー」達が育っていることがとても頼もしく喜びです。

また、春と秋の公民館前のプランターの花苗の植込み作業はもとより、公民館との共催で行っている寄せ植え教室では、参加者が花好きな人達も多いことありますが、しばしば有意義な情報交換の場となり、面白さを教えてくれるのも楽しみの一つです。



参加者との親睦を図りながら、さらに出来上がった寄せ植えは文化祭などに出品展示し、地区の皆さんへの啓もう活動の一環としています。また、寄せ植えは参加者宅や道を彩り、地区の皆さんの笑顔を誘ってくれています。

これからも、地区の皆さんとともに、花作りのおもしろさを知って頂き、益々盛んにしていきたいと願っています。



こぼれ種、こぼれ苗の魅力

花と緑の銀行 普及研修部

雪が溶けて土の表面が暖まり始めると、こぼれ種や宿根草の株からいろいろな芽が出始めます。これらの種は厳しい冬の寒さに耐えてきているので、生育が旺盛で、それぞれの花壇の土に合った苗に育ちます。

4月下旬頃から、**コキア**が発芽し始めます。コキアは赤い茎に毛の生えた細い葉を何枚も出します①。少し大きくなるとこんもりとしたボール状になり②③、夏は緑、秋は鮮やかな紅葉④と長い期間楽しませてくれます。



ハツキソウは厚みのある大きな楕円形の双葉を出します⑤。最初は1本の茎で伸びますが⑥、大きくなると枝分かれして葉を広げます。花が咲き始める頃から、葉の縁に真白い斑が入り、真夏には清涼感溢れる花壇を演出してくれます⑦。



5月中旬になると**メランポジウム**が芽を出し始めます。最初は丸みをおびた双葉を出しますが、葉の縁にほんの少し、切れ込みが入るのが特徴です⑧⑨。葉の枚数が増えるにつれて、先の尖った菱形に変わります⑩。黄色い花が次々と咲き、丸くまとまった花冠を作るので、手間がかかりません。暑い夏にも強く、初冬まで咲き続ける、とても頼もしい花です⑪。



ニチニチソウの双葉は細長く、先端は丸みをおびています⑫。次の葉からは先の尖った光沢のある柳葉になります⑬。なんと言っても白い葉脈がくっきりと目立つのが特徴です。夏から秋にかけて次々に花を咲かせてくれますが⑭、過湿や猛暑には弱いので、水はけや風通しの良い場所に植えることが大切です。



サルビア・コクシネアは小さな切れ込みの入った柔らかい葉が、しっかりと90度を守って出てきます⑮。この特徴は蕾になっても続き、四角い花のタワーが伸び上がってくる感じが、とても魅力的です⑯。花がらを摘むと1週間程度で次々に花を咲かせます。さらに、初雪が降るころまで咲き続けるので、連続して花を咲かせたい時にはとても重宝する花です⑰。



センニチコウは毛の生えた細い葉を出します⑱。夏から秋にかけて鮮やかな赤いボール状の花を空中に次々と咲かせ、こぼれ種がいつしか主役となって花壇を飾ってくれます⑲⑳。茎が柔らかく倒れやすいので、茎のしっかりした花と組み合わせることが大切です。



4月の初め頃に**サルビア・ファリナセア**が越冬株の基から葉を出し始めます⑳。葉脈がはっきりして、ややねじれた葉が特徴です㉑。早めに切り戻しておくで枝分かれして、多くの花を咲かせてくれます。夏から初冬まで長い期間、花が楽しめます㉓。



バーベナも春早く、葉の周辺に細かい切れ込みのある濃い緑の葉を出し始めます。匍匐性の“花手鞠”タイプのものと㉔㉕、三尺バーベナ（バーベナ・ボナリエンシス）と呼ばれる直立性のものがあるので㉖㉗、こまめに観察することが大切です。三尺バーベナはこぼれ種でも簡単に増えます。



この他にもいろいろなこぼれ種、こぼれ苗が、個性的な形で芽生えてきます。苗の特徴を的確に捉えて育てることで、低コストでカラフルな花壇づくりが楽しめます。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン①⑦

バーバスカム・ニグラム

職藝学院

教授 渡邊 美保子

バーバスカム・ニグラムは、ゴマノハグサ科でヨーロッパ南部原産の宿根草です。夏の暑さにも冬の寒さにも強いのですが、数年で消えてしまう気まぐれな生き方をします。草丈は、120cm～160cmぐらいで、太い花茎にびっしりとレモン色的小花をつけるので、花壇では、とても目を引く存在です（写真1）。

花の直径は2cm～3cm程度なのですが、一本の茎に少なくとも200個以上の小花が付き、おしくらまんじゅうをしているような咲き方をします。小花一つ一つをひきたたせているのは、赤紫色の5本の雄しべです。よく見ると、雄しべの先には、それぞれに、たっぷりと黄土色の花粉の固まりがあります。特にこの種類は、雄しべ全体に綿飴のようなふわふわした毛があり、花びらの派手な黄色をやらせてくれています。

種が手に入るなら、種から育てることをお勧めします。種から育てると、1年目は太い花茎が一本立ちあがってきます。1年目の草丈は、なんと160cm位になります。

小花が競い合うように咲き、種をつける頃にはその重みで今にも倒れそうに見えますが、意外と踏ん張りがきくようです。地面の際から出ている葉っぱも40～50cmと巨大で、たった一本の花茎のために葉っぱは、せっせと養分をつくり、根っこは全力で水分を吸い上げているように見えます。ところが、一冬越して2年目になると、前の年に咲いていた茎が枯れ、その横から新しく出た新芽は、4つ～6つぐらいに増えてゆきます。不思議なことに新芽から立ち上がってくるそれぞれの花茎は、初年度よりも細くて短くなります。増えた新芽は養分を平等に分けてもらっているためです。そのかわり花茎は短くても、それぞれの茎に花が咲いて種を結びますので、出来る種の数はい前の年に比べると2倍～3倍にもなります。

花は、6月の初旬から7月にかけて咲きますが、花が終わり花茎が茶色い棒っきれになる前に、茎全体を葉の上で切り戻しますと、葉の脇から再び花茎が数本立ち上がってきます。花茎の長さは元の長さのだいたい半分になり、再び8月頃に花を



写真1：種をまいて一冬越したバーバスカム。6月中旬。草丈120cm程度。



写真2：咲き終わった花茎を切った後に再び開花。草丈70cm程度。8月。

咲かせます（写真2）。

花が咲き終わる頃に、再び花茎を葉っぱの上で切り戻しますと、またまた、花茎が伸びてきます。花茎の長さは、またまた、短くなりますが、またまた9月の終わり頃に花が咲きます。こんなことを繰り返して長く花を見せてもらえると、なんだか得した気分になります。バーバスカムにしてみると、せっかく種をつけようとしているのに、花茎を切られるものですから、がんばってまた咲かせようとするわけです。この、へこたれない精神は全く見上げたものです。

組み合わせのポイントは、とっても簡単です。とりあえず、花壇の後方に植えてみることです。草丈が高いので手前にどんな花を植えても引き立ちます（写真3）。水はけのよい、乾いた土壌で、日当たりのよい場所を好みます。バーバスカムの仲間は、イギリスでは、宿根草ボーダー花壇の後ろに植栽される定番です。最近では、園芸店でも様々な園芸品種が流通してきました。色は、黄色、白、エンジ、紫、赤紫などです。葉も、深緑や銀灰色など様々ですので好みの品種を見つけるとよいでしょう。



写真3：手前から宿根サルビア（桃・紫）、オルレア（白）、バーバスカム。

庭木に利用する樹種の特徴と管理－クチナシ－

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

6月から7月上旬の頃に住宅街を歩いていると良い香りが漂ってくれば、それはクチナシの花の香りです。秋のキンモクセイや早春のジンチョウゲとともに香りの良い花木の代表選手です。

1. 特徴

この花木は、アカネ科クチナシ属の常緑樹で、大きくなっても1～3m程度のため、庭木や垣根などに適しています。日本では静岡県以西の暖かい地域に分布しています。本県でも冬の雪や寒さの対策をとれば植えることが出来ます。富山県中央植物園では、その対策をとっていますので、元気に育っています（図1）。

クチナシの花びらは6枚で、開花すると純白になります（図2）。少し遅れて咲く八重咲きの園芸品種もあります（図3）。11月になると黄紅色の実となります（図4）。この実は翌年の2月頃まで枝に着いており、おもしろい形をしていることもあり、花だけでなく実も十分楽しむことができます。

なお、実からは黄色の色素がとれ、布地を染めるのに使われたり、栗きんとんや沢庵など食品の色付けに使われたりします。

2. 維持管理

日陰でも育ちますが、花を咲かせるためには日当たりがよい場所で、極端に乾燥しない腐植質に

富んだ土壤に植えてください。成長するに従い、自然に樹形が整うので、基本的には剪定の必要はありません。どうしても剪定をせざるをえない場合は、開花後なるべく早い時期に行ってください。それ以降になると翌年の花芽が形成されますので、以降の剪定はさけてください。

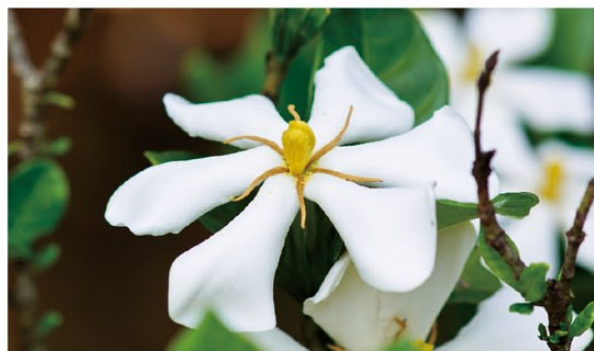


図2：花（2012年6月28日撮影）



図3：八重咲きの園芸品種（2012年7月12日撮影）



図4：実（2011年11月17日撮影）



図1：クチナシ（2009年6月25日撮影）

※これらの写真は富山県中央植物園で撮影したものです。



五柱社周辺の緑花環境づくり

花と緑の銀行氷見支店

余川地方銀行 頭取 **山口 康夫**

満開の桜もいつしか葉桜となり、新緑の色が増し、心待ちにしていた土いじりの楽しい季節となりました。当地区では、花と緑の銀行氷見支店の支援をいただき花壇づくりに活動していたグループや花づくりの好きな人、興味を持っている人たちなどに声をかけ、当地区の7自治会から成る「余川地区緑花推進協議会」を昨年に設立し、新たな花壇整備や花づくりに取り組んでいます。

また、昨年、当地区内にある五柱社鳥居の改築にあわせて、手水舎の新築と境内の大掃除を兼ねて、市の「花と緑の地域づくり事業」の助成をいただき、「五柱社花壇クラブ」を設立しました。このクラブでは、神社周辺の環境整備を行おうと、周辺自治会の皆さんや余川地区緑花推進協議会の協力のもとで、30㎡程度の花壇を新設し、芝生広場の周囲には桜の苗木20本を植え、常緑の中に色とりどりの花や、春には桜の花が見られる環境に整備しました。

どの地域においても、地区のコミュニケーションの場が少なくなってきたり、悩んでおられると思います。今回整備しました花壇や広場では、

地区の皆さんが多く参加していただき、花壇の土壌づくりや花苗植え、桜木の下草刈りなどを楽しみながら作業にあたっております。地区行事が少なくなってきた今日、こうしたことが地区のコミュニケーションの場となっています。

また、地区内で以前から別に取り組んでいる「ふれあい花壇」を管理する皆さんは、毎年、市花壇コンクールに参加しているほどの花づくりのベテラン揃いで、「五柱社花壇クラブ」もこの方々から花づくりの指導などを受け、余川地区内の異世代交流の場ともなっております。

今後も、当地区緑花推進協議会が主体となって花と緑の活動の輪を拡げ、地域のコミュニケーションの場として、地域の活性化につなげていきたいと考えております。



写真1：五柱社花壇



写真2：ふれあい花壇

〈お知らせコーナー〉

■ 平成26年度花と緑のコンクール実施予定

コンクール名	応募締切	審査日
● 富山県花のまちづくりコンクール		
幼稚園・保育所花壇部門	7月 9日 (水)	7月17日 (木) ~7月18日 (金)
花の道部門	7月16日 (水)	7月24日 (木) ~7月25日 (金)
学校花壇部門	7月23日 (水)	7月31日 (木) ~8月 1日 (金)
一般花壇部門	7月30日 (水)	8月 6日 (水) ~8月 8日 (金)
● 花と緑の標語コンクール	8月 1日 (金)	8月27日 (水)
● 花と緑のポスター原画コンクール	9月10日 (水)	9月12日 (金)

▶各コンクールの実施要領は5月中旬に各支店あてに発送予定です。また、花と緑の銀行ホームページでもご案内します。
▶標語及びポスター原画コンクールの募集要領は、6月上旬までに県内の小中高校に配布します。

■ 花しょうぶ祭りの開催について

県民公園頼成の森に親しんでいただくことを目的に、今年も6月20日(金)~6月29日(日)の10日間、「第29回頼成の森しょうぶ祭り」が開催されます。詳細はホームページ等でお知らせいたします。



平成25年度
コンテナガーデン
大賞

北陸新幹線
「まっとうがいぜー」
氷見支店
十二町 海津の小庭

平成25年度
私の寄せ植え
第1位

暖かい春、
今年はどこに
いったのでしょう！
富山市
山本 俊雄氏



表紙写真：撮影場所 行田公園（滑川市）

裏表紙写真：「マルバマンサク 一雫の中に雑木林」；（2013年3月 上市町にて）…写真提供 長谷川 幹夫氏





「マルバマンサク ― 雫の中に雑木林」 (2013年3月 上市町にて)



花と緑の銀行だより 191号

発行日 平成26年5月

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>